

別添-2 設計付与条件

道の駅すくもサニーサイドパーク物産館(以下「物産館」という。)に関する基本的な事項については、以下に掲げるとおりとする。また、「道の駅すくもサニーサイドパーク物産館基本計画書」を参照のうえ、物産館の魅力を高めることのできる独自視点での提案を積極的にすること。

(1)コンセプト

宿毛と出会い、宿毛を味わい、宿毛を連れて帰る。

(2)基本的な考え方

地元特産品を通じて、宿毛の自然・文化・人を感じる体験を提供
訪れるすべての人に、「また来たい」と思ってもらえる滞在価値を創出
観光のハブ、地域の顔、そして未来の宿毛を育む場

(3)整備目標

- ・安全で、人にやさしく、利用しやすい施設
- ・信頼性の高い構造と安全設計により、来訪者の安心を確保。
- ・すべての来訪者が迷わず快適に利用できるよう、動線と表示に配慮
- ・ユニバーサルデザインに基づいた誰もが使いやすい施設
- ・くつろぎと憩いの空間を備えたレイアウトとし、軽食や休憩ができるスペースの整備

(4)機能

①物販

・市内の特産品や加工品の魅力が直感的に伝わるよう、季節やテーマごとの編集がしやすい売場構成とする。生産者のストーリーや背景が感じられる陳列を心がけ、「思わず手に取りたくなる」「つい誰かに贈りたくなる」商品演出を行う。買い物動線は入口から自然に奥へと誘導されるよう計画し、回遊しやすくすることで、売場滞在時間の最大化と購買体験の質を高める。市内事業者によるテストマーケティングやイベント販売にも対応可能な、柔軟性のあるスペースを設ける。

②軽食

地元産の素材を使った軽食やドリンク等を提供する軽食スペースを設置することで、物産品の“味”をその場で体験できる機能を持たせる。

湯煎や電子レンジによる簡易調理が可能で、誰でも手軽に使えるような衛生的かつ効率的な

厨房設備を整備する。

約 16 人が同時に喫食可能なスペース(可動式の長机やテーブルなど、形状は問わない)を確保する。

③情報発信

市内の飲食店や産地直売所の案内、近隣市町村の観光地情報など、地域全体の魅力を発信するハブとして機能するコーナーを設ける。

(5)物産館の内外装に関する基本的な考え方

- ①宿毛湾の海をイメージの基調とし自然の豊かさを表現できるデザイン
- ②来訪者に宿毛の食の豊かさを想起させることができるデザイン
- ③お客様が売場に気づき、興味・関心を抱き、入店し、店内を回遊し、商品を選んで買いたいと思わせるVMD(Visual Merchandising)手法の活用
 - ・往来する歩行者を誘導する仕掛け
 - ・季節感を取り入れる等お客様に飽きられない仕掛け
 - ・季節ごとのレイアウト変更等に対応できる利便性
 - ・入店しやすく、物産館内での動線を配慮したレイアウト
 - ・商品を見比べて選びやすいレイアウトや陳列等
- ④木材の積極的な活用(特段の事情がない限り、県産材を使用すること)
- ⑤車椅子、高齢者、乳幼児等の利用を想定したユニバーサルデザインへの配慮
- ⑥建物北西側(海側)の眺望を活かした展望コーナーを設置する
- ⑦併設型または独立型(管理棟)として軽食スペースを設置
- ⑧施設内外に休憩スペースを設け、ゆったり過ごせる場を提供